

質的研究手法

—5つの研究手法(Creswell, 2003)—

1. ナラティブ研究(Narrative Research)

- ナラティブは人々の経験の反映であり、語りである。
- 諸個人の生活を研究し、彼らの人生のストーリーを明らかにしようとして、何名かの個人に質問を行う探求の一形式
- ナラティブの2つのタイプ：
 - ① 年代順(最初・真中・最後)に話される。
 - ② 年代順ではない。(大きなストーリーの中でつながる小さな話)
- ストーリーのタイプ
 - ① 毎日のストーリー：自分が毎日どのように過ごしているかを話す
ex)...そして私は、庭に行って、少し仕事をします。それから家に戻って座るんです。
 - ② 自伝的なストーリー：自伝的なストーリーを通して行動を正当化・説明する。
ex)よくダンスを踊ったものだ。でも今はもうダンスはできない。多分もうダンスはできないでしょう、この痛みでは。
 - ③ 伝記的なストーリー
その人と他の人を関連づける。研究者は、他の人のストーリーを記述することで読み手が他の人の感情や木津付きやすさを理解することを助ける。
 - ④ 文化的なストーリー
病気の理解など、文化的背景における特有の意味を明確にし、説明する。
 - ⑤ 集められたストーリー
沢山のストーリーを再び語ることによって状態や経験の形態、全体像を作り出す。
- Creswell(2007), p.17

2. 現象学(Phenomenology)

- 現象に関わる人間の経験の「本質」を理解し、明らかにしていく。
- 「生きられた経験」の研究であり、理解することは哲学的である、
「生きられた経験」：科学的に構築された客観的世界ではなく、主体によって直接的に経験されたもの。森や川を経験させてくれたのは地理学の教科書ではなく、生きられ知覚された具体的な森や川の風景であった。このような経験をいう。

3. エスノグラフィー(民俗学・記述民俗学) (Ethnography)

- 手付かずの文化集団を長期にわたってそのままの状態で研究する。
- 観察と面接方法からのデータ収集
- 濃密な記述の使用(時間・場所・出来事と切り離すことができない)
- 重要な情報提供者と場所の選び方：ある基準に基づく意図的な対象選択
- イーミック、あるいはエティックな特徴。：はじめに研究者はイーミック(内部の人)のとらえ方を理解することが重要。エティックな視点(外部の人)もまた重要であり、研究者による科学的説明であ

る。

- 研究プロセスは柔軟性があり、フィールドで遭遇した実際の現実位に対応するよう、文脈に応じて展開する。

4. 事例研究(Case Study)

- プログラム、出来事、活動、プロセス、一名・数名の個人を徹底的探究して行く。事例は時間と活動に関係しており、研究者は一定期間を通じて、多様なデータ収集の手順を用いて詳細な情報を収集する。

5. グラウンデッド・セオリー(Grounded Theory)

- 研究者の目的は、研究協力者の観点に根付いた形で、プロセスや行為や相互行為に関する一般化された抽象的な理論を引き出すことにある。
- データ収集、情報に関するカテゴリーの精製とカテゴリー相互の関係付けという、いくつかの段階を踏む。
- 特徴：①研究途中で浮上してきたカテゴリーを用いた絶えざる比較 ②多様な集団における理論的サンプリング

『外国語教育研究ハンドブック』(第19章 “GTA 入門” p.285-306)

- グラウンデッド・セオリー・アプローチ (grounded theory approach: GTA) は、(a)データに根ざして(grounded)、(b)概念をつくり、(c)概念同士の関係性をみつけて、(d)理論を生成する研究手法。
- GTA の種類：
 - ① グレーザー版(数量的方法論の一部を共有する、言語データの厳密な分析手法)
 - ② ストラウス・コービン版(SC-GTA) (数量的方法論には頼らず、新たな理論と方法論の構築を試みる。→質的研究手法として地位を確立)
 - ③ 修正ストラウス・グレイザー版(M-GTA)(GTA の要素を整理し質的研究手法としてより使いやすくしたもの)

■ GTA の分析手法

<ストラウス・コービン版(SC-GTA)>

- ① データ収集
- ② テキスト化
- ③ 切片化
- 言語データを分析単位に分割する。目的は、文脈から切り離すことで、分析者が言語データから距離をとること。
 - ④ オープンコーディング
 - 1. プロパティ (切り口・視点)・ディメンション(中身・内容)の書き込み
 - 2. ラベルづけ (データの簡潔な名前)
 - 3. 複数のラベルを束ねたカテゴリーの生成
 - ⑤ 軸足コーディング
カテゴリー同士を関連付ける作業。
パラダイム (状況・行為/相互作用・帰結) を用いて各カテゴリーを再統合する。

⑥ 選択的コーディング

コア・カテゴリーに向けて各カテゴリーを関連付ける。

「コア・カテゴリー」：カテゴリーを統制して理論を生成する際の中心になるもの
プロセスを把握することが重要。

⑦ ストリーラインの作成

カテゴリー関連図を作成したら、理論的サンプリングを新手に行い、全体像を把握するために、
ストーリー・ラインを記述する。

「ストーリー・ライン」：現象をカテゴリー、ラベル、プロパティ、ディメンションを使って記述した
もの。

▼表 19-1 切片化からオープン・コーディングまでのサンプル

	データ	プロパティ	ディメンション	ラベル	カテゴリー
1	留学する前にはとても不安でした。	機会 時期 心境	留学 留学前 不安だった	留学前の不安	留学前的心境
2	英語なんかぜんぜん話すことができないし。	英語への不安	高い	英語への不安	
3	授業にはついていけないだろうと思っていました。	英語への不安 授業への不安	高い 高い	勉強への不安	

<修正ストラウス・グレイザー版 GTA(M-GTA)>

■ SC-GTA 版との違い：切片化がなく、コーディングもオープン・コーディングと選択的コーディングのみ。

■ 切片化の代わりに、「分析ワークシート」を導入。

①分析ワークシート：

- 概念名：ヴァリエーションの記述を束ねる上位の概念
- 定義：どのようにデータを解釈したか
- ヴァリエーション：記述の抽出
- 理論的メモ：プロセスで「気づいたこと」、「考えたこと」、「採用しなかった解釈」などを記入

■ 分析の過程での気づきやアイデアをメモするフィールドノートのような、「理論的メモ・ノート」の作成も推奨される。

■ 重要な点：解釈を記入する「定義」と採用されなかった解釈を記入する「理論的メモ」があることで、オープン・コーディングの段階で、「研究する人間」の視点から、あらゆる解釈を出し(オープン化)、解釈を吟味し定義すること(収束化)が同時に可能となる。

②選択的コーディングと結果図

■ 選択的コーディング：各概念を関連付けカテゴリーを生成。

■ コア・カテゴリーがみつからなくても、カテゴリー間の関係性を把握し、全体を説明することができる。

- 関係性発見のポイント：「理論的メモ・ノート」を参考にする。
- 無理に概念同士を結び付けず。結び付けに不足するデータは理論的サンプリングにより、追加する。

- 選択的コーディングの結果は、結果図にまとめる（≒カテゴリ関連図）

④ SC-GTA 版と同様に、ストーリー・ラインを作成し、考察を加え、分析の終了。

▼表 19-4 分析ワークシートのサンプル

概念名	留学前の心境
定義	学生たちが留学前に感じていたこと
ヴァリエーション	<p>学生A₁_001： 留学する前はとても不安でした。英語なんかぜんぜん話すことができないし。授業にはついていけないだろうと思っていました。</p> <p>学生A₂_001： 留学する前はやっぱり不安でしたね。以前に短期の留学はしたことがあるけれど、学校が全部やってくれたし。今回は、2年と長期だし、イギリスはアメリカとだいぶ違う国だと思っています。</p> <p>学生A₃_001： やっぱり不安でした。海外にいったこともないし、英語なんてぜんぜん。さらにホームステイして、英語で授業を受けるなんて、もう不安だらけです。</p>
理論的メモ	留学前は不安であったことを語っている。特に、英語でコミュニケーションすることへの不安が高い。想定されている場所は、ホームステイ先と学校が中心。

<参考文献>

Creswell, J.W.(2003). 『研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法』(操 花子, 盛岡 崇、訳), 東京: 日本看護協会出版会.

Holloway, I. & Wheeler, S. (2006). 『ナースのための質的研究入門—研究方法から論文作成まで』(野口美和子, 監訳), 東京: 医学書院.

竹内理・水本篤. (2012). 『外国語教育研究ハンドブック』東京: 松柏社.(第 19 章)

稲葉・抱井(2011). 質的データ分析におけるグラウンデッドなテキストマイニング・アプローチの提案—がん告知の可否をめぐるフォーカスグループでの議論の分析から. 政策科学, 18(3), 255-276

- 同一データに対して、質的データ分析と、グラウンデッドなテキストマイニング・アプローチ(GTMA)を行い、その手法と結果を、質的研究の4つの評価基準である、「credibility(信憑性)」、「transferability(転用可能性)」、「dependability(確実性)」、「confirmability(確証性)」の中で、比較。
- GTMA の利点：
 - 「confirmability」：GTMA ではデータの全体像や分析と解釈の仮定、結果を明瞭な形で示すことができる。
 - 「dependability」を担保することが容易。コンピューターによる機械的処理の結果に基づくため、分析結果に研究者の解釈の飛躍が含まれる可能性が少ない。
 - 「credibility(信憑性)」と「transferability(転用可能性)」においては、GTMA により改善できないが、人間とコンピューター両方の結果を照合することで、テキストの現象をより深く理解できる可能性が高い。
- 欠点：研究者自身の質的データ分析と比較して研究時間の短縮は保障されない。質的データ分析とテキストマイニングの両方に取り組む必要があり、研究全体に要する時間が長くなる可能性がある。